

令和 8 年 2 月 5 日
清掃・リサイクル部
事 業 課

「Fry to Fly Project」への参加を通じた家庭用廃食用油の回収促進について

1 主旨

廃食用油等を原料とする航空燃料 S A F※の活用促進を通じて資源の再利用の促進及び二酸化炭素の排出抑制を進めるとともに、区における廃食用油の回収のさらなる促進を図るため、民間事業者等による S A F 利用促進プロジェクトである「Fry to Fly Project」に参加し、区民への啓発強化を図っていく。

※Sustainable Aviation Fuel（持続可能な航空燃料）の略称

2 家庭用廃食用油の回収の現状について

区では区内 27 箇所の回収拠点において家庭用廃食用油を回収し、民間事業者に売却し、石鹼等に加工・再利用している（令和 6 年度で約 5 トン）

しかし、事業用廃食用油の約 9 割がリサイクルされている一方で、家庭用廃食用油の再利用は進んでおらず、令和 5 年度に実施した「世田谷区環境に関する区民意識・実態調査」では、廃食用油を資源回収に出しているとの回答の割合は 3.2%にとどまっている（牛乳パック：37.3%、発泡トレイ：32.4%）

3 「Fry to Fly Project」への参加を通じた家庭用廃食用油の回収の促進

i) 廃食用油等を原料とする航空燃料 S A F については、従来の航空燃料に比べて二酸化炭素の排出量を約 80%削減することができるとして効果が明確であること、
ii) 家庭から出る廃食用油が国内の航空会社の航空燃料として活用される仕組みが資源循環の形として明確でメッセージとして伝わりやすいこと、iii) 国や全国自治体、民間事業者が参加・連携し、独自の P R 活動も行われており、プロジェクトのキャッチコピーやロゴ、画像などを活用した啓発効果が期待できることから、区として「Fry to Fly Project」に参加することとする。

(1) Fry to Fly Project について

①概要

S A F で航空機が飛ぶ世界の実現に向け、家庭用や事業用を含めた廃食用油の回収促進や S A F の国内製造の推進を図るプロジェクト。

②運営団体（事務局）

日揮ホールディングス株式会社

③参加団体（令和 7 年 12 月末時点）

290 団体（※東京都をはじめ、23 区では荒川区と足立区が参加）

④区の参加時期

令和 8 年 4 月～

Fry to Fly Project



Photo by Tatsuya Tanaka

日揮ホールディングス株式会社提供

(2) 区で回収した廃食用油の売却等について

区が回収した家庭用廃食用油の全量を「Fry to Fly Project」においてS A F事業を担う株式会社レボインターナショナルに売却する。(売却予定額は、年間約18万円)

(3) プロジェクトを活用した普及啓発の取組み

①各種広報媒体を通じた周知啓発

区ホームページにおいて「Fry to Fly Project」に関するページを作成するほか、X、メルマガ、資源・ごみ分別アプリ「さんあ〜る」等の広報媒体を活用した区民向けの周知啓発に取り組む。

②環境学習用冊子での紹介

小学校の教育課程で廃棄物について学習する際に活用してもらうため、環境学習用の冊子を配付しており、この中でS A Fの取組みを紹介する。

③区の拠点回収事業でのP R

区が公共施設等で実施している拠点回収事業において、プロジェクトを紹介する周知用チラシ等を活用し、P Rを強化していく。

④プロジェクトとの連携

プロジェクトのホームページに世田谷区が参加団体であることを掲載するとともに、上記の普及啓発事業においてプロジェクトのキャッチコピーやロゴ、画像等を活用する。

4 今後のスケジュール（予定）

令和8年2月 プロジェクト運営事業者との契約内容等の調整

4月〜 プロジェクトへの参加

S A Fへのリサイクルを用途とした廃食用油の回収開始